

INFORMATION *Circular*

JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

■選挙結果	1
■大会案内	2
■ごあいさつ	2
加藤淑裕	2
安増郁夫	3
■特別寄稿	4
織田秀実	4
■報告とお知らせ	7
初代培養肝細胞研究会	7
成茂海外出張旅費援助	7
山田科学振興財団援助	8
第6回発生懇話会	9
■事務局より	10
■学会会議だより	12
■会員異動	16
■第20回大会お知らせ(詳細)	30

NO.55

DECEMBER 1986

日本発生生物学会

〒160 東京都新宿区西早稲田1-6-1

早稲田大学教育学部生物学教室

日本発生生物学会の諸組織は以下のとおりです

会 長：〒 194 町田市南大谷11
三菱化成生命科学研究所 発生生物学研究室
加藤淑裕（電話 0427-26-1211 内線244）

DGD編集主幹：〒 812 福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学理学部生物学教室
山名清隆（電話 092-641-1101 内線4408または4410）

DGD編集幹事：〒 730 広島市中区東千田町1-1-89
広島大学総合科学部
天野 実（電話 082-241-1221 内線357）

事務局：〒 160 東京都新宿区西早稲田1-6-1
早稲田大学教育学部生物学教室
（電話 03-203-4141 内線 3911）

（幹事長）^{ヤスマス}安増 ^{イクオ}郁夫
（会計幹事）^{フジワラ}藤原 ^{テキコ}昭子
（庶務幹事）^{ナミキ}並木 ^{ヒデオ}秀男

学会センター：〒 113 文京区弥生2-4-16
学会センタービル内日本学会事務センター
日本発生生物学会係（電話 03-817-5801）

入退金、会費納入、および出版物（DGD、サーキュラー等）の郵送については、上記学会事務センターに書面で御問合せ下さい。

事務局よりのお願い！

テレホンカード販売について

前号のサーキュラーでもお知らせ致しましたが、日本発生生物学会発行のテレホンカードを発売中です。まだお買求めでない方、どうぞ御購入下さい。すでに御買いになられた方も2枚目をどうぞ（そろそろ度数もなくなってきた頃と思いますが……）

まだ、たくさん残っておりますのでどうぞ御協力下さい。お願い致します。詳細は前54号をごらん下さい。

日本発生生物学会

事務局会計幹事 藤原 昭子

1. 日本発生生物学会第10期会長および運営委員選挙結果

昭和61年12月8日(月)国立遺伝学研究所会議室において開票され、以下のように決りました。

会 長：安 増 郁 夫

次 点：江 口 吾 朗

運営委員：天野 実 (広大・総合)

石崎 宏矩 (名大・理・生)

江口 吾朗 (基生研)

岡田 益吉 (筑波大・生)

片桐 千明 (北大・理・動)

加藤 淑裕 (三菱生命研)

黒田 行昭 (遺伝研)

佐藤 矩行 (京大・理・動)

塩川光一郎 (九大・理・生)

鈴木 義昭 (基生研)

平本 幸男 (東工大・理・生)

星 元紀 (東工大・理・生)

水野 丈夫 (東大・理・動)

毛利 秀雄 (東大・教養・生)

次 点 山上健次郎, 団まりな

尚, 安増郁夫氏は会長に当選のため, 安増郁夫氏を除く15位までの14名が次期運営委員として当選した。

以 上

選挙管理委員：黒田 行昭

森脇 和郎

清水 裕

立 会 人：名和 三郎

2. 第20回大会の御案内

第20回の大会は、1987年5月28日(木)・29日(金)・30日(土)の3日間、京都伝統産業会館(京都市左京区岡崎公園内)で開かれます。一般講演(口頭発表とポスター)を募集いたします。詳細は本号30頁をご覧ください。

京都大学理学部動物学教室

第20回大会準備委員会

米 田 満 樹

3. 会長を辞するにあたって

今回、12月末を以て、2期4年間にわたって務めさせて頂いた会長の任を離れることになりました。

思い起こしますと、4年前、会長就任に当たって述べた言葉、“浅学非才の人間が如何にして発生生物学と言う学問を、次の世代に伝えて行くか”と言う気持ちは今でも変わりありません。会員の皆様は、非力の私を支え、幾多の私の失敗をも暖かい目で見守って、助けて下さいました。心から感謝いたして居ります。

私の発生生物学に対する基本的な考え方は、“この学問領域は多様化しているのが一番健全である”と言うのにつきます。個々の研究者が、自分自身の研究材料、アプローチを大切にしながら、発生生物学の大きな流れの中で何をもって学問に貢献できるかが、私達に課せられた任務であると信じて居ります。

学会は、現在、経済的に困難な時期にさしかかっております。この困難さを克服しないまま、次期の会長の任を、安増教授にお渡しすることを大変に心苦しく感じて居ります。私に対して以上の皆様のご支援をお願いする次第です。

今まで、何とかやってこられましたのは、安増事務幹事長、山名編集主幹、運営委員の方々を始めとする会員諸学兄姉の力添えのためと思って居ります。心から御礼申し上げます。

昭和61年12月

加藤 淑 裕

4. ごあいさつ

安増 郁 夫

私儀、この度加藤会長の任期満了に伴う会長選挙によって、次期会長に選出されました。非常な名誉を感じると同時に責任の重大さを痛感致しております。

本学会は、現加藤会長のあいさつにもありますように、多くの研究方向から広い発生学分野にわたった開かれた学会であり、これまでも優れた研究成果が多々発表されて来ました。このような輝かしい業績を持つ会で会長をつとめられた諸先輩に比べますと、私は学問上ではもちろんのこと実務におきましても非力である事を実感致す次第でございますが、とにかく、皆様の歩んで来られた道を継承し、日本発生生物学会の発展のために微力を尽して努力したいと思います。さて、本学会のアカデミックな意味での水準を上げて会の魅力を増す事は私の直接良くする所ではないと存じますが、優秀なる会員の皆様が十分に活動のできる環境を整備する事こそ私の使命だろろうと思っております。日本発生生物学会は、例えば文部省科学研究費の均衡メンバーを推薦する機能を持たない事でもおわかりの様に、「非政治的」な学会であります。従って、その様な方面での学会員への「サービス」は、もちろん拡張すべく努力は致しますが、極めて少なからうと思ひます。従って本学会と会員との現実的なふれあいは主にDGDの刊行配布、年に1回の大会、そしてインフォメーションサーキュラーの配布にならうかと思ひます。従ってこれらは維持

されねばならない最少のもので有りますが、現実には、本学会はこれさえも実行する事に危惧を感じる程の深刻な財政危機状態になっております。この財政危機は一に今年度の驚くべき円高によって持たされたものです。このために、DGDの海外頒布に伴う収入が、その販売部数が増加しているにもかかわらず、通年で約30%の減小を見ました。本学会は会員数が比較的少ないと申せましょうが、DGDという優れた、そして「大きな」Journalを持っている事が特徴です。そのためDGD販売による収入依存率は極めて高く、30%強になっておりました。しかし現在の円レートではこれは20~25%にまで低下致し、当然全収入も減少を見ております。この事はDGDの海外頒布が多い事を示すわけですからある意味では誇る事かも知れませんが、実際には62年度一般会計は、特別会計を取りくずしてまかなわれる赤字予算になる可能性が高いと思われま。そのため63年度には、特別会計が一般会計をおぎなう事も不可能となりま。このような財政危機によって学会を破綻させることは断固として回避しなければなりません。私にあたえられた任務の第1はこの財政の再建にあります。そのためにはむしろ積極的にDGDの質的な充実を計り、より広く頒布を計りたいと思います。具体的な審議はもちろん運営委員会の皆様と致しますが、一案と致しまして私見をのべさせていただきますれば、DGDの論文の超過頁のことがあります。現在国外からの論文の超過頁代は円高のため驚くべき額になっていますし、国内からのものに致しましても、投稿を躊躇させる程の金額です。つまり投稿を阻害する要因となっていることは確かです。頁数の増加ということは財政の圧迫につながります。しかしながらそのことによってDGDの質的な向上を見、頒布量を増やすことが出来るならば、必ずや将来の財政安定につながると考えます。議論の百出する所かと存じますが一考の価値ありと思えます。次に当学会の大会は、その顔ともいえる行事であります。実際には開催地の会員の皆様の努力で運営されており、学会事務局の貢献は微々たるものです。しかし、会長並びに学会事務局も当然重大な責任を持つべき行事であることはいうまでもありません。本学会ではこの度大会講演論文の内容を、事前の手續をへて講演後に特許申請ができるという特許法による指定学会になりました。近年の科学技術の進歩は、基礎的研究分野でもこのような配慮が必要との判断のもとに特許庁に申請致しておりました結果許可されたものです。これによって、特許申請を行い得る内容を持つ論文の発表の障害が取りのぞけたものと考えています。

これらを含む諸々の問題の解決によって、会員の皆様の発表が促進されかつ会員数の増加につながる事ができれば、すなわち財政的基盤を支えることにもなると考えます。又、「発生学」に含まれる分野ならびに関連する分野の研究者で、本学会との関係の強くない方々の積極的な参加も期待する所です。

当面の間、会員の皆様に御迷惑をおかけすることも多々あると存じますが、学会の充実、繁栄を成すことは偏に皆様のお力添えあつてのことです。何卒この後も御指導、御協力をいただけますよう心よりお願い申し上げます。

5. 日本発生生物学会が産声を上げたころ

織 田 秀 実 (立教大・一般教育・生物)

日本発生生物学会は、1968年5月18日、立教大学（東京）5号館で設立総会を催し、産声を上げた。

胎動期 産声の前に胎動期があった。一つは戦前（太平洋戦争）より実験形態学会（代表者は市川衛博士）が設立されており、『実験形態学誌』の刊行や研究発表のための大会を催し、活動してきた。一方、戦後間もなく、発生学の国際雑誌“Embryologia”を刊行する母体として日本発生学協会（代表者は佐藤忠雄博士）が発足し、研究成果を内外に発表していた。また、東京では発生学談話会（代表者は丘英通博士）がつくられ、東京在住の発生学研究者の研究交流の場となっていた。こうした情勢の中で、1967年5月、名古屋大学で実験形態学会の大会が開催されたとき、これらの団体が単に合併するというのではなく、より広範囲の関係者が積極的に参加する新たな日本発生生物学会を創設しようということが合議された。そして『実験形態学誌』は『発生生物学誌』と改名することが諒承され、“Embryologia”も編集会議を開いて新しい方向に対応することになった。こうした経緯を経て、同年7月京都大学に初の日本発生生物学会設立準備委員会が招集された。このとき、私は林雄次郎博士（当時、東教大）から代理として出席するよう依頼された。ここで、私は初めて胎動期の日本発生生物学会にかかわりをもつことになった。その委員会では新学会設立のための発起人73名のリスト作りや会則原案の討議が行われた。そして設立総会並びに第1回大会は東京で開こうということになり、委員長には林（雄）博士が指名された。

設立総会への準備 1967年秋のある夜、関口晃一博士（当時、東教大）が招待した酒宴の席に林（雄）博士をはじめ5名のものが居合せたが、歓談するうちに私は「立教大学ではあらかじめ登録された学術団体の全国的規模の催しには5万円の補助金が出る」ということをうっかり口に滑らせてしまった。それが運のつきで、後日、林（雄）博士から日本発生生物学会の設立総会並びに第1回大会を立教大学で催してほしいと正式の要請があった。何しろ、立教大学では発生学関係者は、当時私一人だったので、会場設定はやるとしても、もろもろの準備や運営には東京教育大学から応援を頼むという条件付きで会場を引き受けた。立教大学当局には新しい学会だが、既に登録してあった実験形態学会の生れ変わりだということを力説して、学会開催の諒解を得ることができた。

1968年になり会場その他の手配をし、着々と準備を進めていた。立教大学の用度課に学会開催の件を相談したところ、全面的に協力してくれ、器材等を整えることができた。だが、3月になっても林（雄）博士の下で立案されることになっていた当日の進行に関することは少しも具体化されていなかった。それで石崎宏矩（当時、京大）、加藤憲一博士（当時、同志社大）と連絡をとり、お膳立てをして林（雄）博士に相談し、ようやく当日の段取りが具体化していった。会場

設営や受付には東京教育大学の発生学関係の方々が多数協力して下さることになったので、会を進める目処がついた。

設立総会と第1回大会 第1日(5月18日)午後1時から設立総会が開かれた。まず新学会発足の趣旨や経過が報告された。この学会の目的は発生生物学の進歩と普及をはかることにある。つづいて学会の構成・活動について討議された。このとき、印象的だったのは「会長・運営委員は最初から会員の直接選挙によって選ぶようにせよ」と強い意見が出たことであった。また、会則の中に「10年毎に新たに学会のありかたを見直す」という条文を入れることが提案され、それらが可決された。新しい学会にふさわしい門出というべき事柄であった。出席者は200名を越えていた。

小休止をして3時から、団膳勝・柳田友道・古谷雅雄の各博士による記念講演が行われた。夕刻、会場地下の食堂で懇親のビール・パーティが催された。このときの生ビールは用度課職員の特別な計らいによるものであり、その費用は立教大学からの補助金でまかなわれた。

第2日(5月19日)は、第1回大会として、2会場で一般講演47題が発表された。1題の持ち時間は20分であった。一般講演での新しい試みは講演番号をテレビで示したことであった。座ったままでテレビ・カメラの下の小型の番号プレートを取り替るだけでことたりたので、人手の少ないのを補い、また同時に暗所で口演の進行状態を明示することができた。

口演発表終了後、「若手研究グループの集い」がゼミ用の特別教室で行われた。若い研究者グループは発足した発生生物学会に大きな期待を抱いていたのであった。

午後9時を過ぎて出席者がすべて立ち去って行ったあと私一人が控室に残った。それまで張りつめていたせいか、疲れが一挙に出て、しばし椅子に座ったまま立ち上がれなかった。

ちなみに、その後間もなく立教大学も大学紛争の波に吞まれ、学会など開けるような状態ではなくなった。また、大学事務系の人たちが学会開催に協力してくれるような雰囲気もなくなってしまった。

後日談 設立総会のほとぼりがまだ覚めないころに市川衛・佐藤忠雄両先生から直筆のご丁寧な礼状をいただいた。一つの新しい学会を産み出すのに遣り甲斐があったことを改めてかみ締めた。若手研究グループからも毛筆による丁寧な手紙をいただいた。謝辞のあと「日本における発生生物学をより一層レベルの高い学問に育てて行く上にも、われわれ若手は今後ともよく勉強し、仕事をして行かなければならぬと痛感しております。何分にも弱小のグループではありますが、今後ともよろしくご指導・ご鞭撻のほどお願いいたします」と結んであった。

あれから20年の歳月が流れ、日本発生生物学会は今日の盛況をみるに至った。礼儀正しい、謙虚な若手研究グループは今やこの学会の中堅となっている。だが、前述した市川衛・佐藤忠雄・丘英通、それに林雄次郎の各先生は今では故人となってしまった。今更のように時の移り変りを感じる。創設当時からみると、2世代、あるいは3世代も若い研究者が育っているのではないだろうか。この学会は10年毎に学会全体を見直すと会則に謳っていることを再度想起し、一層の発展を期待したい。

このチラシは発起人が名前をつらねて、全国の関係者ないし団体に配布した総会の案内です。

〔資料〕 発起人の趣意書 ー日本発生生物学会の発足についてー

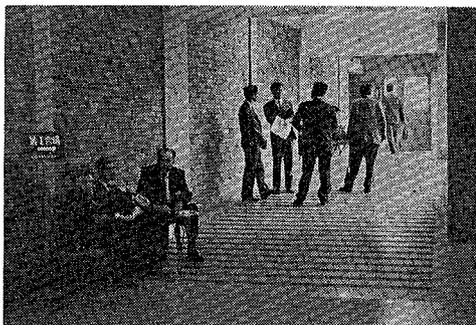
年度変りの時期となり、皆様方にはご多忙のうちにもますますご健勝のこととおよろこび申し上げます。

さて、わが国に動植物の発生現象に関する学問分野が導入されてから、すでに一世紀の年月を経てまいりました。導入初期から現在に至るまでこの分野で国際的に高く評価された数々の業績が生れてきたことはご承知のところでありませう。

ところで、戦後、遺伝学・微生物学・生化学・分子生物学など、関連分野の著しい発展に伴い、発生学は戦前における形態学的手法に基づいた古典的概念から脱皮し、〈発生と形態形式に関する要因の分析と統一原理の追求〉という意図のもとに、発生生物学として新たな発展をしつつあります。その結果、医学・薬学・農学などの分野との関連を深め、時とともにますます多くの研究者の関心を呼んでおります。

ひるがえって、わが国の発生生物学関連分野の現状をみますと、多くの研究が行なわれておりながら、研究者は動物学・植物学・医学・薬学・農学といった系統別の学会に分散されており、集中的な研究交流の場が設けられておられない状態であります。そこで、発生生物学の今後における発展性から、またこの分野における諸外国の現状からみまして、わが国の発生生物学関係者がそれぞれの所属学会を超えて単一の研究交流の場を持つことは是非必要であろうと考えられます。

このような次第で、私たち有志は、このたび日本発生生物学会の設立について同意に達し、そのための諸準備を進めてまいりました。私たちがといたしましては、この際新しい学会へ、より広い層から参加を強く希望しております。幸にして、この趣旨にご賛同下さいますならば、関係者の方々に積極的にご入会をおすすめいただき、わが国における発生生物学の発展のためにお力をたまわりますよう念願する次第であります。



日本発生生物学会第1回大会の会場廊下で歓談する会員たち左から団勝磨、楢山正雄、G.W. ネースの各博士

——撮影 織田秀実——

1968年3月1日

発 起 人 一 同

6. 第3回初代培養肝細胞研究会のお知らせ

日本発生生物学会編集部

昭和61年10月14日

拝啓

この度、下記の要領にて「第三回初代培養肝細胞研究会」を開催したいと存じますので、貴学会員に伝達お願いいただきたく存じます。

つきましては貴学会機関誌のニュース、集会告知欄に出来るだけ早期にご掲載いただければ幸甚に存じます。

宜しくお願い申し上げます。

敬具

世話人

(代表) 佐藤 二郎 岡山大学医学部癌源研究施設 教授

小出 典夫 岡山大学医学部中央検査部 講師

阪上 賢一 岡山大学医学部第一外科 講師

平松 祐司 岡山大学医学部産婦人科

宮崎 正博 岡山大学医学部癌源研究施設 講師

(五十音順)

記

「第三回初代培養肝細胞研究会」お知らせ

日 時 昭和62年6月4～5日

場 所 地方公務員共済 まきび会館(岡山市)

出席、発表の詳細は下記に郵便にてお問い合わせ下さい。

連絡先 初代培養肝細胞研究会事務局

〒770 徳島市蔵本町3丁目18番地の15

徳島大学医学部酵素研究施設 酵素病理部門

7. 成茂海外出張旅費援助者の募集

第5回前期分として1名を募集します。

援 助 金 額 20万円

応 募 締 切 昭和62年4月30日

申請用紙送付先 〒160 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学教育学部生物学教室内

日本発生生物学会事務局

申請用紙は上記事務局に御請求下さい。

山田科学振興財団援助について

昭和62年度山田科学振興財団への研究援助候補推薦について

山田財団から研究援助候補推薦要領が届きました。応募なさる方は学会事務局へ推薦書用紙を申し込んで下さい。

- 1) 推薦書用紙送付：61年9月
- 2) 申請期限：62年1月末日（発生生物学会事務局あて郵送）
- 3) 学会内審査：2月
- 4) 財団へ推薦：3月上旬

推薦要領は次の通りです。

昭和62年度 山田科学振興財団研究援助候補推薦要領

援助の趣旨 本財団は、自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する個人又はグループに対し援助します。

援助の件数及び期間

- イ 件数 1件1千万円以内の援助を10件内外
- ロ 期間 1年を原則とします。研究の継続を必要とする場合は、毎年提出された推薦書に基づき選考します。

推薦方法

- イ 推薦者 本財団が依頼した学(協)会の代表者
- ロ 推薦件数 1推薦者ごとに4件以内
- ハ 推薦手続 推薦者は、以下の書類を整え、ご送付願います。
 1. 所定の推薦書用紙又はその写しに必要事項を記入したもの 5部
 2. 添付書類（ページ・研一5 参照）

記載上の注意

- イ 黒インクで明瞭に記入して下さい。
- ロ 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。
- ハ 推薦書第1頁欄外の脚注には記入しないで下さい。
- ニ 代表研究者は所属する大学(部等)・研究機関等の長から本援助の申込をすることについての承諾を得て下さい。

推薦締切期日

本財団へ推薦書が到着する締切期日は昭和62年3月31日(火)です。

選考方法

選考委員会において選考のうえ、理事会が決定します。

選考結果の通知

昭和62年7月末迄に推薦者及び代表研究者等にあて通告します。

援助金の贈呈

選考結果の通知後2分割して支給します。

推薦書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団
(Yamada Science Foundation)
〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号
電話 大阪 (06) 757局 3311 (代表)

研究の成果又は会計の報告

援助金の受領者に対して、必要に応じ、研究経過、研究成果又は会計について報告書の提出又は発表を求めます。

付

- イ 援助金の使途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得て下さい。
- ロ 援助金から支出することのできない経費は、文部省科学研究費の場合に準じます。
- ハ 研究成果を文書によって発表される際には、本財団（財団法人 山田科学振興財団, Yamada Science Foundation）の援助による旨を記載し、報文の類いにある場合はその別刷2部、また著書の類いにある場合はその

1部をご寄贈願います。

書類は、お返しいたしません。

ニ ご提出いただきました推薦書及び添付

研究者各位へ

推薦者の項に対応する学(協)会は次記のとおりです。学(協)会により締切期日及び募集方法等が異なりますから、代表研究者は応募の際、各学(協)会にお問い合わせ願います。

日本天文学会	日本地球電気磁気学会	日本薬学会	日本動物学会
日本植物学会	日本物理学会	日本化学会	日本生化学会
日本細胞生物学会	日本免疫学会	応用物理学会	高分子学会
日本生理学会	日本生物物理学会	電子通信学会	日本分析化学会
日本遺伝学会	日本発生物学会	日本金属学会	日本農芸化学会
日本分子生物学会	日本植物生理学会		

8. 第6回発生懇話会の報告

前略

去る7月19, 20日に、福岡県芦屋町の国民宿舎「あしや」にて、第6回の九州・山口発生懇話会が開かれました。九州の各県と山口県から発生生物学会の会員、非会員35名が参加し、下記の10の話題を中心に活発な討論が行われました。また、懇親会の時には、今後のこの会のもちかたについての意見交流等も含め、夜遅く迄、参加者同士の親睦を深め合いました。懇親会の席上で来年の第7回の懇話会の世話役は、宮崎大学の芋生氏にお願いすることになりました。 草々

1986年8月18日

第6回発生懇話会 世話人 大塚英司(九大・教養・生物)

林 宏文(産業医大・動物研究センター)

第6回九州・山口発生懇話会 話題

- 1) ヒキガエル卵の卵膜形成過程 田尻浩章(山口大・理・生物)
- 2) 両生類の卵割速度は何によって決まるか 坂井雅夫(鹿児島大・理・生物)
- 3) 両棲類の脳幹の内部構造の分化 岩堀修明, 横平弥生, 清田悦子(長崎大・医・第一解剖)
- 4) 正常グリアの発生と経胎盤的グリオーマの発生(ラット) 池田高良(長崎大・医・病理)
- 5) 放射線照射後の骨髄再生に関する研究 —Parabiosis rats を中心に—
矢野京子(国立療養所福岡東病院歯科)
- 6) コラーゲンの生物学 宇宿源太郎(熊大・医・遺研)
- 7) 両生類の in vitro における精子形成 安部真一(熊大・理・生物)
- 8) 始原生殖細胞の in vitro での動態 桑名貴, 藤本十四秋(熊大・医・第三解剖)
- 9) E1マウスにおけるてんかんの研究 ¹笛田由紀子, ²三田隆
(¹産業医大・医短, ²産業医大・分子生物)
- 10) 球状タンパク質チュープリンの分子配列 —マウス卵管線毛上皮細胞の微細管形成—
林 宏文(産業医大・動物研究センター)

9. 学会発表の特許申請について

前号(No.54 P.3)でお知らせしたことに関して、この度本学会が昭和61年8月13日をもって、特許法第30条第1項(実用新案法第9条第1項において準用する場合を含む)の規定に基づく学術団体に指定されました。以下に特許庁長官より通達された詳細を転載致します。研究発表に関する特許を申請する場合は事務局に証明書を請求して下さい。

記(特許庁より)

1. 貴学会が開設した学術講演会、講習会、シンポジウム等の研究集会において、原稿、図面等の文書(以下「文書等」という。)をもって発表された発明又は考案について当該発表者又はその承継人(当該発明又は考案に係る特許又は実用新案登録を受ける権利を承継した者)から特許法第30条第1項(実用新案法第9条第1項において準用する場合を含む。)の規定の適用を受けるための証明書を求められたときは、速やかに、事実に基づいて証明書を発行しなければならない。
2. 貴学会が開催する研究集会において発表された文書等にあつては、発表のときから1年間、特許法第30条第4項(実用新案法第9条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づく証明書を発行したのものに関する文書等にあつては、証明書を発行したときから5年間、文書等又はその写しを学会の事務所に保存しなければならない。
3. 貴学会が次に掲げる事項の一に該当するに至った場合には、直ちに、その旨を特許庁長官に届け出なければならない。
 - (1) 目的又は事業に変更があつたとき。
 - (2) 代表者に変更があつたとき。
 - (3) 構成員の数に著しい変動があつたとき。
 - (4) 主たる事務所の所在地に変更があつたとき。
 - (5) 機関誌紙が廃刊又は減刊になつたとき。
 - (6) その他運営に著しい変化があつたとき。
4. 定款、機関誌紙、研究集会の開催状況、2の規定により保存する文書及びこれらに対する書類の提出を特許庁長官から求められたときは、速やかに、これに応じなければならない。
5. 上記事項に違反した場合は、指定を取り消すことがある。

参 考(特許法第30条)

(発明の新規性の喪失の例外) 関

第30条 特許を受ける権利を有する者が試験を行い、刊行物に発表し、又は特許庁長官が指定する学術団体が開催する研究集会において文書をもって発表することにより、第29条第1項各号の一に該当するに至った発明について、その該当するに至った日から6月以内にその者が特許出願をしたときは、その発明は同項各号の一に該当するに至らなかつたものとみなす。

(改正, 昭45法律91)

- 2 特許を受ける権利を有する者の意に反して第29条第1項各号の一に該当するに至った発明について, その該当するに至った日から6月以内にその者が特許出願をしたときも前項と同様とする。(改正, 昭45法律91)
- 3 特許を受ける権利を有する者が政府若しくは地方公共団体(以下「政府等」という。)が開設する博覧会若しくは政府等以外の者が開設する博覧会であって特許庁長官が指定するものに, パリ条約の同盟国の領域内でその政府等若しくはその許可を受けた者が開設する国際的な博覧会に, 又はパリ条約の同盟国以外の国の領域内でその政府等若しくはその許可を受けた者が開設する国際的な博覧会であって特許庁長官が指定するものに出品することにより, 第29条第1項各号の一に該当するに至った発明について, その該当するに至った日から6月以内にその者が特許出願をしたときも, 第1項と同様とする。(改正, 昭40法律81, 昭45法律91)
- 4 特許出願に係る発明について第1項又は前項の規定の適用を受けようとする者は, その旨を記載した書面を特許出願と同時に特許庁長官に提出し, かつ, その特許出願に係る発明が第1項又は前項に規定する発明であることを証明する書面を特許出願の日から30日以内に特許庁長官に提出しなければならない。

※〔Ⅰ〕〔学術団体の指定〕特施規第2章, 〔Ⅲ〕〔博覧会の指定〕特施規第2章の2, 〔条約上の義務〕条約11, 〔Ⅳ〕〔適用を受けようとする場合の手続〕特施規27の3

「日本高齢社会総合研究センター(仮称)の設立についての提言」を公表

昭和61年 8月 日本学術会議広報委員会

本会議高齢化社会特別委員会は、このたび、「日本高齢社会総合研究センター(仮称)の設立についての提言」をとりまとめ、本会議運営審議会の承認を得て、公表いたしました。

今回の「日本学術会議だより」では、この「提言」の概要に加えて、本会議と学・協会とを結び付ける上で重要な役割を果たしている研究連絡委員会の概要等を紹介し、また、本年9月に開催を予定している本会議主催の公開講演会についてお知らせいたします。

「日本高齢社会総合研究センター(仮称)の設立についての提言」(概要)

昭和61年 5月26日

日本学術会議高齢化社会特別委員会

今日、高齢社会への移行の問題が大きく取り上げられているにもかかわらず、我が国の研究体制は国際的にも遅れており、とくに人文・社会科学の分野においてそれがいちじるしい。そこで、この遅れを取り戻して時代の要請にも応えるために、我々は「日本高齢社会総合研究センター」(仮称)の設立を提言したい。

1. 総合研究センターの目的

すでに日本学術会議は、昭和55年、「国立老化・老年病センター」設置についての勧告を内閣総理大臣あてに行っている。この医学・生物学を中心とする研究・診療型センターと緊密な連携を保ちつつ、本「日本高齢社会総合研究センター」は、人文・社会科学を中心として、(1)高齢社会の構造問題、(2)高齢層をめぐる総合政策、(3)高齢者の生活課題を総合的に研究するものである。また、本センターにおける研究は3つの原則、すなわち(1)高齢者主体の原則、(2)地域特性の原則、(3)国際交流の原則を重視する。

2. 当面の研究課題と活動

(1)地域福祉・在宅福祉との関連におけるソーシャルケアのあり方、(2)高齢社会における全年齢層の生涯学習体制の確立、(3)70歳まで働ける雇用体制づくり、(4)健康で自立的な高齢者の社会的役割の重視。またこれら以外に、(5)高齢社会に関する研究者・実務専門家・政策担当者などキーパーソンの養成、(6)高齢者、わけても75歳以上の後期高齢者の生活実態と生活意識の全国的及び国際的調査、ならびにモデル調査地域における高齢社会化過程の追跡調査の実施も必要不可欠なものである。

3. 総合研究センターの性格

(1)法律にもとづく独立性の高い法人とする。
(2)国の出資による基金を基礎として設立されるが、そのほかにも一般寄付、研究受託費などを加えて弾力的に運営する。
(3)人文・社会科学を中心とする全国的なネットワーク型の中枢的研究センターであって、官庁や大学の付置型ではない。

4. 研究の運用

(1)研究・調査は総合研究センターの自主研究のほか、受託研

究・委託研究を行い、できれば研究助成も行いたい。

(2)いずれの研究・調査も、必要な研究者で随時編成するプロジェクト・チーム方式によって組織する。

(3)大学、省庁、自治体、企業体、その他の研究機関から、外国人研究者も含めて、短期・長期の流動研究員を受け入れ、研究者と実務家との交流をはかると共に、研究者・政策担当者を養成する。

(4)また必須の活動として、情報セクター「調査室」において高齢者調査と高齢社会化過程の追跡調査を行う。

5. 研究の機構

次の諸セクターから構成される。

(1)研究セクター、(2)情報セクター(調査室・資料室)、(3)研修セクター、(4)公開活動セクター、(5)国際交流セクター

このような構想の下に、本「日本高齢社会総合研究センター」は、高齢社会に関する研究を、人生80年段階の文明的意味の究明を含めて行っていく。

「中性子回折・散乱研究の推進に関する意見 —物理学、結晶学両研連の意見」を発表

本会議物理学、結晶学両研究連絡委員会は、このたび、「中性子回折・散乱研究の推進に関する意見」をとりまとめ、本会議運営審議会の承認を得て、両委員会委員長の連名で、関係機関へ送付した。

<「意見」の概要>

現在、日本原子力研究所において、改JRR-3研究用原子炉の建設が進められているが、この原子炉の利用は、物理学、結晶学はもとより、関連諸分野における中性子回折研究に重要な寄与を果たすものと思われる。

一方、この原子炉には、原研の外に、東京大学物性研究所、東北大学理学部等が多数の各種測定装置を設置する計画がなされている。

物理学および結晶学両研究連絡委員会は、これらの研究機関等によって改JRR-3を利用する中性子ビーム実験装置が設置されることが、我が国の基礎科学の進展に極めて大きな意義をもつことにかんがみ、この計画が遅滞なく達成されるよう、関係各方面の御配慮をお願いする次第である。

我が国における学術研究の推進について —大学院の充実等を中心として—(要望)

次の代を担う若い人達をどうしたら立派に育成することができるかという問題は、その国の将来を決める上で重要である。日本学術会議においても第13期活動計画の中にこの種の問題の重要性をうたっているが、これからは経済的のみならず学術的にも大きく世界に貢献する立場に置かれているだけに、独創的な若い人達を育成する必要が一段と強まっている。

学術研究推進のための一つの大きな柱として若い研究者の育成、特に大学院の充実等を中心としてまとめる際、むずかしい基本的な問題は、学問分野によって事情が著しく異なるが、今回の「要望」はおおむね各分野に共通する問題であり緊急性の高いものにしてまとめてみた。その中では学問の急速な進歩に対応し得るよう、長期的展望にたつて大学院(必要な人員、設備、建物面積や経常費等)を抜本的に強化充実を図る必要性を強調し、さらに大学院における人材養成について基本的問題を踏まえて、大学が大学院の内容を自主的に検討し、改善すべき点は積極的かつ的確に実現していくことが必要である。

一方研究者の層をもっと厚くし、研究基盤を強化し、特に基礎的学問分野の充実を図ることが急務である。研究者の交流その他、種々の問題があるが、一つの新しい建設的提言として地域的研究機構の設立がある。研究機器が年々性能が向上すると共にその価格が高くなる情勢下において、効率よく使う仕組みが要求されている今日、日帰りでも使える地理的範囲に先端的機器を配置すると共に、その場を、その地域に特徴的なしかも世界的レベルの独創的研究を育成する場とし、研究者の日常的交流、協力を、国内、国外、産官学の広い範囲にわたって図ろうとするものである。その他年々加速度的に盛んになる国際交流についても、特に若い研究者達が日常的に国際的競争の場の中で育成される条件を整えることが重要である。

この要望は大学院の充実という、考えようによっては当然の事柄が、現在あまりにも不十分である現実を前にして、国に対して、また大学自身に対して出されたものである。

詳細は、日本学術会議月報11月号を参照されたい。

広報協力学術団体の申込について

本会議では、第101回総会で内規の一部改正が行われ、従来の「連絡学・協会」は、名称を「広報協力学術団体」と改め、資格要件も大幅に緩和されました。「広報協力学術団体」とは本会議活動の周知を図るとともに、各分野の学術研究団体との緊密な連絡・協力関係を維持し、強化するため広報活動に協力してもらうために指定する団体です。詳細は事務局にお問い合わせください。

なお、登録学術研究団体、従来からの連絡学・協会は自動的に指定されたものとみなします。

公開講演会開催のお知らせ

本会議は、9月27日「21世紀の学術」をテーマとした公開講演会を開催したが、第2回目の公開講演会を次のように企画しているので、多数の方々のお来場をお願いしたい。

☆ テーマ 学問の自由と科学者の責任

☆ 日 時 昭和62年1月24日(土)13時30分～17時

☆ 会 場 日本学術会議講堂

☆ 演題及び演者

- 科学研究の環境と科学者の責任(大木道則 第4部会員、東京大学理学部教授)
- 学問の自由と教育の自由(大田 堯 第1部会員、東京大学名誉教授)
- 生命科学の進歩と科学者の責任(渡辺 格第4部会員、北里大学衛生学部教授)

自由討議—高度情報社会の展望と課題—

この自由討議は今期に設置された、高度情報社会特別委員会のメンバーが、個人の立場で、来るべき高度情報社会の展望と課題についての意見を発表したものである。第3部竹内 啓(可能性と展望)、第5部平山 博(技術的展望と問題点)、第2部正田 彬(人権)、第4部坂井利之(人間)、第1部東 洋(教育)の各会員がそれぞれ付記したサブテーマについて問題を提起した。これに続いて、第7部梅垣洋一郎(医学・医療)、第6部飯田 格(情報と図書館)の各会員からコメントが提出された。

すべての部にまたがる広汎な分野からの発表であるから、その対象・論旨は多様であったが、あえて要約すると以下のようである。

これまでの「人」と「物」の社会に、これらと独立して「情報」が生まれた。情報の処理、通信(伝送)、記憶の超高速、巨大化と認識・識別の高度の発展により、労働形態・教育・医療も含めて社会を大きく変化させることが予想される一面、人権、人間疎外を始めとする影の部分にも十分に配慮する必要があると強調された。

なお、この自由討議は別途刊行される予定である。

財団法人日本学術協力財団設立

日本学術会議と密接に連携しつつ、本会議の成果を国民に還元するため出版事業や国際会議の計画策定などを行う財団法人日本学術協力財団(〒106 東京都港区西麻布3-24-20 TEL 03(403)2860)が10月17日、内閣総理大臣所管の公益法人として設立されました。

この財団は事業の一つとして、日本学術会議総会時における自由討議等を「日学双書」としてシリーズで発行・販売することにしており、当面、脳死をめぐる諸問題(11月初旬発行)、21世紀の学術(12月中旬発行予定)及び高度情報社会の展望と課題(2月中旬発行予定)が予定されています。

学術研究団体調査についてお願い

日本学術会議事務局では、昭和61年7月1日現在で全国の学術研究団体(いわゆる学・協会)の調査を実施しています。

この調査は、全国の学術研究団体の最近の活動状況を把握することを目的としており、主要な項目については、「総覧」として刊行することを計画しております。

当事務局で承知している各学術研究団体には、既に調査依頼を行っておりますが、最近発足した学術研究団体などで調査依頼が未着のところがありましたら、当事務局推薦管理事務室あてに御連絡くださるようお願いいたします。

☆ 申込方法: 往復はがき(住所、氏名を明記)

☆ 定 員: 300人(先着順)

☆ 申込締切日: 昭和62年1月17日(土)

☆ 申 込 先: 〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議事務局庶務課講演会係

多数の学協会の御協力により、「日本学術会議だより」に掲載していただくことができ、ありがとうございます。なお、御意見・お問い合わせ等がありましたら下記までお寄せください。

〒106 港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会

(日本学術会議事務局庶務課)

電話 03(403)6291

第13期初めての勧告・要望出る

昭和61年11月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、去る10月22日から24日まで第101回総会（第13期の4回目の総会）を開催しました。

今回の「日本学術会議だより」では、今総会で採択され、政府に勧告した「国立代用臓器開発研究センター（仮称）の設立について」及び要望した「我が国における学術研究の推進について—大学院の充実等を中心として—」を中心として、同総会の議事内容をお知らせします。

また、来年1月に開催を予定している本会議主催の公開講演会等についてお知らせします。

総会報告

総会はその初日に、会長からの経過報告、各委員会報告に続き、規則などの改正、勧告・要望の提案がなされ、午後の各部会での審議の上、2日目午前中にこれらの採決が行われた。なお、前日、21日午前に全員が出席する連合部会が開催され、これらの案件の予備的な説明・質疑が行われた。3日目は午前中、常置委員会、午後は特別委員会が開催された。

総会の冒頭に先に逝去された、第3部会員高宮 晋氏（部長）を追悼した後、新たに任命された野口 祐会員が紹介された。また、チェルノブイリの原子力発電所事故について、原子力工学研究連絡委員会委員長から8回の会合における検討に基づく、この研連の見解「原子力の平和利用と安全性」が委員長の間際原子力機関での事故調査検討状況と共に報告された。

総会で決定された事項は、すべて「日本学術会議月報」11月号に詳しく掲載されるので、主要な項目の説明にとどめる。まず、第1常置委員会で鋭意検討されてきた、会則の改正、規則及び内規等が次のように採択された。会則の改正は、「衛生学研連」から「環境保健学研連」への名称変更である。規則の改正は、昭和63年度の第14期会員推薦手続きの手直しであって、その第1は、学術研究団体（学・協会）の登録に際し、従来の方式に加えて会員名簿などの添付を要請すること、会員推薦の場となる「推薦研連」に登録する学・協会を確保する方策などである。第2は、この登録された学・協会が会員候補者を届け出の際の記載事項を追加して、推薦人の判断資料を充実させることである。最後に推薦研連が熱工学研連から機械工学研連へ、衛生学研連から環境保健学研連へと変更された。

内規の改正は、日本学術会議の活動の周知と学・協会との連絡・協力を維持・強化するために、「連絡学・協会」の名の下に多くの学・協会との緊密な連絡を保ってきたが、今回、これを「広報協力学術団体」と改称し、別項のようにさらに広い範囲の学・協会と連携を図るようにしたものである。

特別委員会のうち、国際協力事業特委は任務を終了したので、それに代わり、人材養成などを含めて総合的・学際的・広域的な地域の研究機関のあり方を検討するために、「地域の研究推進特委」が設置され、直ちに委員を選出して活動を開始した。

本総会では、第7部提案の「国立代用臓器開発研究センター（仮称）の設立について（勧告）」、第4常置提案の「我が国における学術研究の推進について—大学院の充実等を中心として—（要望）」が採択され、直ちに内閣総理大臣始め関係諸機関等に送付した。これらの詳細は別項及び月報所載のとおりである。

第2日目午後、「高度情報社会の展望と課題」について自由討議を行った。

国立代用臓器開発研究センター（仮称）の設立について（勧告）

人体のある臓器が障害を受け、従来の治療によっては、もはやその機能の回復が不可能になった場合には、当然、死に至るわけであるが、近代医学は、その臓器の機能を他のもので代替することによって、未だ完全の状態と言えないまでも生命の維持を可能にしている。その一つの手段が人工臓器であり、もう一つが臓器移植である。両者は代替という同じ目標を持ちながら、全く異なった研究アプローチで、それぞれ独立したテーマとして発足し、今日の進歩をみている。例えば腎臓移植と人工臓器との関係では、両者の技術は全く異なっている。しかし、慢性腎不全の治療における両者の相補効果は極めて高いものである。人工臓器と臓器移植とはあたかも車の両輪のような関係にあるので、医療の場において両者を一体化した医療システムが強く要求されている。

このような関係にある両者を合わせ、代用臓器と呼んでいるが、この研究が今後飛躍的に進めば、臓器疾患に悩む患者の治療に貢献することは間違いない。一方これら研究の我が国の現状をみると、個別的に極めて優れた成果を挙げているものもあるが、全体的にはまだ十分の研究体制が整っているとはいえない。その理由を考えてみると、臓器移植の面では、臓器取得に関連して、我が国の脳死問題を含む死の判定等人の考え方の相違に基づくと思われる問題が大きいことである。人工臓器の面では、基礎材料の研究に始まり、エネルギー、エネルギー変換機構、駆動機構や臓器機能の制御システムの開発などは、各分野の専門家による有機的な組織のもとでの研究が必要であるにもかかわらず、そのような研究体制が我が国にはなかったのである。

医学、薬学、生物学、理学、工学、農学にわたる分野の研究が緊密な協力研究を行い、臓器置換を安全に、有効に行うため生体生理機構を解明しつつ、システムとテクノロジーを確立することが緊急に必要と考えられる。ただ本研究は臓器置換という生命の尊厳に係わる医の倫理問題が関係しているため、本研究センターの運営には、人文社会科学系の方々参加を求め、また、本研究センター内の活動に係わっては、研究者の倫理的思考の行き過ぎを抑制し、社会の理解を深めるなど医の倫理を検討する組織の設置を計画し、運営機構が一方では開発研究にあたって独創的研究を積極的に推進し、臓器置換という医療がここに飛躍的に進展するよう期待したい。

詳細は日本学術会議月報11月号を参照されたい。

研究連絡委員会（略称「研連」）とは？

日本学術会議法により、科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させることが、本会議の職務の一つとして定められている。そして、そのために必要な事項を調査、審議する目的で、180の研究連絡委員会（以下、「研連」という。）が設置されている。

去る4月の第100回総会では「日本学術会議の運営の細則に関する内規」（以下「内規」という。）が制定されたが、この中で研連については、とくに一章を設け総合的な規定をした。研連については、多くの学・協会の方々にとって関心が深いと考えられるので、上述の規定を中心に関連する規定の大略を以下で紹介する。

1. 研連の職務など

日本学術会議法第15条により、「……科学に関する『研究の領域』及び『重要な課題』ごとに……」研連を設置することが規定されているため、今回の内規においては、研連を「領域別研連」と「課題別研連」の2つに分類し、それぞれの職務を区分している。

(1) 「領域別研連」の職務は、次のとおりである。

関係する学術研究領域についての、①学術の現状及び長期的動向の把握 ②将来計画の立案及び研究条件の整備の検討 ③国内における研究機関又は学術研究団体（学・協会）との連絡調整 ④国際学術団体の国内委員会又はこれに準ずるものとしての職務 ⑤その他

(2) 「課題別研連」の職務は、次のとおりである。

①重要課題についての将来計画の立案及び研究条件の整備の検討 ②複合又は学際分野の研究の促進のための研究の連絡の調整 ③国際的協力事業等に関する国内委員会又はこれに準ずるものとしての業務 ④その他

2. 研連の構成と研連委員の任期

今回の内規では、研連は、関係する日本学術会議会員（以下「会員」という。）のほか、原則としてその研連と関係する学・協会（正しくは、登録学術研究団体）や他の研連等の推薦により委嘱された者によって構成されることとしている。ちなみに、現在の委員定員総数は2,370人である。

また、研連委員の任期については、日本学術会議法により3年の定めがあるが、任期の通算制限については会員と異なり、法には規定がない。そこで今回の内規では、研連の活性化をはかるという観点から会員と同様の運用を行うことになり、「通算3任期まで」という規定をしている。ただし、会員在任期間や国際学術団体の役員等特別な事由がある場合の期間は除かれ、第12期以前の在任期間は算入しないこととしている。

3. 研連の審議成果の発表

研連での審議の結果、得られた成果については、委員会報告書としてとりまとめられて配布されたり、また、研連主催（関係学・協会との共催が多い）のシンポジウム・講演会等で報告されたりするが、それらの中で重要な事項については、春秋2回の総会の決定を経て、勧告、要望あるいは声明等として、日本学術会議名で外部へ出されることもある。

さらに、今回の内規により、前ページの物理学、結晶学両研連の「意見」のように、緊急を要する時には、おおよそ毎月開催されている運営審議会の承認を経て、研連名で外部へ発表することができるようになった。

なお、今回の内規では、会員の推薦には直接に関係のない研連本来の職務や構成等について定めたものである。第14期の会員の推薦に関係するいわゆる「関連研連」については、見直しを行っていて、来る10月の総会で必要な措置をとることとしている。

☆日本学術会議主催公開講演会——「21世紀の学術」——の開催のお知らせ☆

本会議は、このたび学術の成果を国民に還元するという日本学術会議法の趣旨に沿うための活動の一環として、本会議主催の公開講演会を開催することにした。

今回の公開講演会は、本会議の第13期活動計画の中で定められている3つの重点課題に沿いつつ、21世紀を目指した学術の今後の展望を考えるという構想に基づき、次のように企画されている。

多数の方々のお来場をお願いしたい。

日 時：昭和61年9月27日（土）

13時30分～17時

会 場：日本学術会議講堂

（東京都港区六本木7-22-34）

（地下鉄千代田線、乃木坂駅下車1分）

演題と講演者

1. これからの科学の望ましい在り方

近藤 次郎（日本学術会議会長）

講演要旨：20世紀の科学の発展を回顧し、この趨勢で、これからの科学・技術がどのようになるかを予測する。1984年のオウエンスのようなSFを描く。そして人間の幸福とは何かをもう一度考え、環境・資源などから見た科学・技術の在り方を考える。

2. 創造的人間とその条件

本明 寛（日本学術会議会員・早稲田大学教授）

講演要旨：学術会議は、「創造的な基礎的研究の推進」に積極的に取り組むことを宣言している。そのため

には個々の人間の創造活動を重視し、創造性の発揮のための条件を明確にする必要がある。そこで人間的立場からこの課題にアプローチしたい。

3. 学術研究における国際性

西川 哲治（日本学術会議会員・高エネルギー物理学研究所長）

講演要旨：加速器などにおける国際協力に関して講演者自身の体験に基づき、その在り方、問題点、今後の展望などについて考える。

◆申込方法：往復はがき（住所、氏名、郵便番号を明記）

◆定 員：300人（先着順）

◆申込締切日：昭和61年9月20日（土）

◆申 込 先：〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議事務局庶務課講演会係

多数の学協会の御協力により、「日本学術会議だより」に掲載していただくことができ、ありがとうございます。なお、御意見・お問い合わせ等がありましたら下記までお寄せください。

〒106 港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会

（日本学術会議事務局庶務課）

電話 03(403)6291

会 員 異 動 (昭和61年6月～)

＜新入会氏名＞	所 属	(①テーマ ②材料)
松 田 素 子	愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所	①哺乳類脳の形態形成機構の解析 ②ラット マウス
井 上 広 滋	日本水産(株)中央研究所	①魚卵の発生学 卵細胞への外来遺伝子導入 ②魚類
仁 木 雄 三	茨城大・理・生物	①生殖細胞形成等 ②キイロショウジョウバエ
田 口 茂 敏	慶応・医・生物	①発生 ②メダカ
小 野 珠 乙	信州大・農・畜産	①鳥類胚のカルシウム代謝 ②ニワトリ ウズラ
伊 藤 喬	新潟県立十日町高校	①発生過程における誘導現象 ②ヤマアカガエル
内 山 三 郎	独協医大・生物	①細胞性粘菌の分化 ②タマホコリカビ
山 口 泰 典	福山大・工・生物工学	①発生, 休眠等における決定因子の探究 ②線虫 カイコ等
阿 部 道 生	都立大・理・生物	①両生類卵初期発生での卵割面決定におよぼす 重力の影響
藤 岡 美 輝	広島大・生物圏科学	①胚発生過程における細胞増殖調節 ②ニワトリ

＜住所変更＞ 新 住 所

武 内 孝 平	大阪府立堺西高校
門 谷 裕 一	北里大・医・解剖
小 栗 佳代子	国立名古屋病院・臨床研
鬼 武 一 夫	山形大・理・生物
栗 原 一 茂	琉球大・医・二解
田 中 裕一郎	(株)本田技研・和光
松 本 えみ子	東大医科研・微細形態学
山 崎 正 博	秋田大・医・一解
三 田 雅 敏	帝京大・医・一生化
橋 戸 和 夫	(自)〒532 大阪市淀川区東三国 5-15-24-301
秋 元 義 弘	杏林・医・二解

西田育巧 愛知県がんセンター研究所・分子生物
小田隆治 北里大・医
木下清一郎 埼玉医大・生物
関口晃一 (自) 〒347-01 埼玉県北埼玉郡騎西町牛重354
渡辺 彊 東北大・教養・生物
唐沢容子 防衛医大・眼科
大原 たかね 国立神経センター・代謝研究
武居幸子 名古屋大・医療技術短大部
小 嶋 有加利 東大・薬・薬

MINDA J. FORMACION DEPT OF ZOOLOGY
NATIONAL UNIV OF SINGAPORE

MINEO IWATA DEPT OF ZOOLOGY
UNIV OF WASHINGTON

<退 会>

広部知久 (二重登録のため)

石黒誠一 /

木戸哲二

〔賛助会員〕

- 組織培養はパイレックスコーニングの岩城硝子(株) (〒100 千代田区丸の内3-2-3)
TEL 03-214-7401
- 生物学・生態学洋書のことならグリーン洋書(株) (〒211 川崎市幸区小倉610-1-506)
TEL 044-533-0470
- 日製産業株式会社 (〒453 名古屋市中村区名駅4-6-18 名古屋ビル内)
発生学をはじめとする生物科学書の出版社・培風館 (〒102 千代田区九段南4-3-12)
- 最良の選択ファルコン組織培養器具ベクトン・ディッキンソン・オーバーシーズ Inc.
(〒107 港区赤坂8-5-84 島藤ビル) TEL 03-403-9991)
- マウス・モノクローナル抗体(アロ抗体)は明治乳業(株) (〒104 中央区京橋2-3-6)
TEL 03-271-4333
- 三菱化成生命科学研究所 (〒194 町田市南大谷11)
- 科学の技術に奉仕する理工学社 (〒113 文京区本駒込5-9-10)
TEL 03-928-5211
- 次代を担うバイオテクノロジー和研薬株式会社 (〒606 京都市左京区北白川西伊織町25)
- タイプ別コラーゲン抗体は(株)アドバンスへ (〒103 中央区日本橋小舟町5-7)
TEL 03-667-1551
- バイオテクノロジーで未来をひらく(株)バイオ科学研究所 (〒990 山形市城西町5-34-5)
TEL 0236-44-5030
- (株)武田薬品工業中央研究所 (〒532 大阪市淀川区十三本町2-17-85)

学術研究用人工海水
ジャマリン®

- 含有元素の組成は外洋水の分析値による。
- 完全に溶解する。
- 水質は極めて安定。自然海水のようなバラツキがない。
- 研究の目的により色々の種類がある。
- 殆んどすべての海の生物に使用できる。
- 世界各国で広く使用されている。

◆価格(送料別)	20ℓ用	5ℓ用	2ℓ用	
Jamarin S	2,000円	1,000円		オートクレーヴィングできる 一般用
Jamarin U	1,600円	800円		
Ca-free Jamarin		1,500円	750円	
Ca,Mg-free Jamarin		1,500円	750円	
Sulfate-free Jamarin		1,500円	750円	

お問合わせ、ご注文は直接下記へお願いします。

ジャマリン ラボラトリー

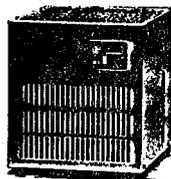
〒536 大阪市城東区鳴野西2丁目11番5号 電話 大阪(06)968-3154

加熱冷却ユニット

クーラー・ヒーターはチタン製。淡水はもちろん海水や薬品液にも使用できる高性能の循環式小型加熱冷却装置です。

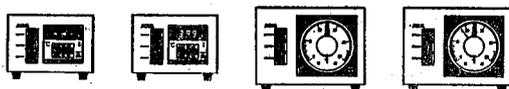
形式 クーラー ヒーター 概略水量 価格

HC061A-3	65W	300W	120 l	¥196,000
HC101A-3	100W	300W	160 l	¥207,000
HC131A-5	130W	500W	260 l	¥220,000
HC201A-5	200W	500W	360 l	¥237,000
HC301A-5	300W	500W	670 l	¥298,000
HC401A-5	400W	500W	1000 l	¥335,000



温度コントローラー

温度を精度良く一定に保つことができます。循環ポンプなどの使用に便利な予備コンセント付き。警報付きなど各種あります。



形式 設定方式 温度指示 温度目盛 制御方式 価格

TA200*	アナログ	なし	-50~50°C	二位置	¥26,000
TA201-S	アナログ	全指示	0~50°C	二位置	¥38,000
TD202*	デジタル	偏差指示	0~99.9°C	二位置	¥29,000
TA300-S	アナログ	なし	0~50°C	三位置	¥37,000
TA301-S	アナログ	全指示	0~50°C	三位置	¥44,000
TD302-S	デジタル	偏差指示	0~99.9°C	三位置	¥48,000
TD303-S	デジタル	全指示	0~99.9°C	三位置	¥58,000

注) 測温抵抗体と併せてご使用下さい。

※印はサーミスター測温体 ¥1,800(空気用) ¥3,000(水用)

無印は白金測温体シース材質 SUS304 ¥7,900 Ti ¥12,000

低温恒温循環水槽

実験台上でも使用できるように極めてコンパクトにまとめた低温恒温循環水槽です。水温は低温から高温までを任意に設定することができます。外部循環機能をそなえておりますので恒温水槽のほか、カラムの冷却、保温など幅広い用途があります。

形式:CT 65-300-S

使用温度範囲:0~50°C

温度調節精度:±0.1°C

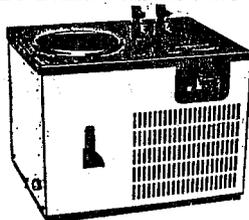
外形寸法:¥420×D330×H340

槽内寸法:φ153×H187

冷凍機:65W

ヒーター:300W

価格:¥250,000



温度勾配装置 (ウォーターバス)

温度調節水槽はそれぞれ独自の温度に設定できます。

精度の高い恒温が得られます。温度の設定はデジタル式。

振とう装置付きもあります。

形式:TGW-3(三連)/TGW-6(六連)

使用温度範囲:0~50°C

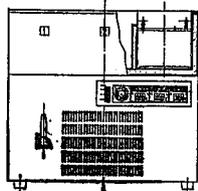
温度調節精度:±0.1°C

槽内寸法:150×260×150×3/×6

冷凍機:65W

ヒーター:100W×3/×6

価格:¥620,000/¥780,000



恒温ボックス

四面全面加熱冷却の新方式による高性能の恒温ボックス。庫内は精度よく一定温度に保たれます。

庫内に霜が付きません。従って乾燥しません。

形式:CTA 452-1

外形寸法:¥700×D460×H440

槽内寸法:¥380×D380×H350

温度範囲:10~40°C

冷凍機:100V 65W

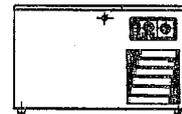
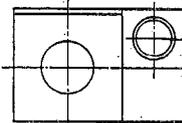
ヒーター:100V 100W

蛍光灯:32W

タイマー:24h

電源:AC100V, 50/60Hz

価格:¥350,000



ポータブル インキュベーター

小型軽量、持ち運びが容易です。

庫内は精度よく一定温度に保たれます。

冷凍機とヒーターを備えていますので庫内を低温(0°C)から高温(40°C)まで任意の温度に設定することができます。

電源は交流・直流両用です。車載用として搬送、野外での使用の他研究室内で利用することができます。透明蓋付もあります。

形式:CTM 305, CTM 306

外形寸法:631×360×H373

槽内寸法:350×280×H260

価格:¥187,000(12V用)

¥189,000(24V用)

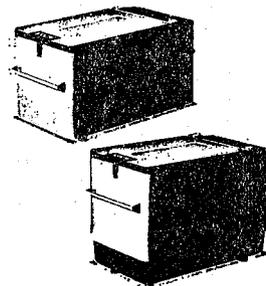
形式:CTM 405, CTM 406

外形寸法:631×360×H480

槽内寸法:350×266×H352

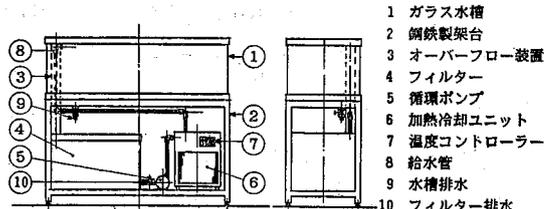
価格:¥196,000(12V用)

¥198,000(24V用)



水生生物環境調節装置

各種の魚介類が飼育できます。各機器はユニット形式を採用。点検管理が容易です。水槽、加熱冷却ユニット、温度コントローラー、フィルター、循環ポンプなどは全て海水仕様です。



- 1 ガラス水槽
- 2 鋼鉄製架台
- 3 オーバーフロー装置
- 4 フィルター
- 5 循環ポンプ
- 6 加熱冷却ユニット
- 7 温度コントローラー
- 8 給水管
- 9 水槽排水
- 10 フィルター排水

形式	水槽	クーラー	ヒーター	価格
ARA 9.5-101A-5	900×500×450	100W	500W	¥459,000
ARA 9.6-131A-5	900×600×600	130W	500W	¥663,000
ARA12.5-131A-5	1,200×500×500	130W	500W	¥678,000
ARA12.6-201A-5	1,200×600×600	200W	500W	¥858,000
ARA15.6-301A-10	1,500×600×600	300W	1,000W	¥1,005,000
ARA15.7-401A-10	1,500×750×750	400W	1,000W	¥1,297,000
ARA18.6-301A-10	1,800×600×600	300W	1,000W	¥1,107,000
ARA18.7-401A-10	1,800×750×750	400W	1,000W	¥1,475,000

三菱化成

なか しべ っ
中標津血清

ライフインダストリーの三菱化成が採血から濾過まで一貫国内生産
最終濾過は孔径0.1 μ mのメンブレンフィルター使用

準胎児血清

生後24時間以内で初乳を飲む前の新生仔牛から採血

新生仔牛血清

生後2週間以内の新生仔牛から採血

成牛血清

1.5才以上の牛から採血

ARMOUR血清

Armour Pharmaceutical Company (U.S.A.) 製造

胎児血清

(Rehatuin® F.S.)

仔牛血清

生後16週間以内の仔牛から採血

何れもロットチェック用サンプルを提供致します。



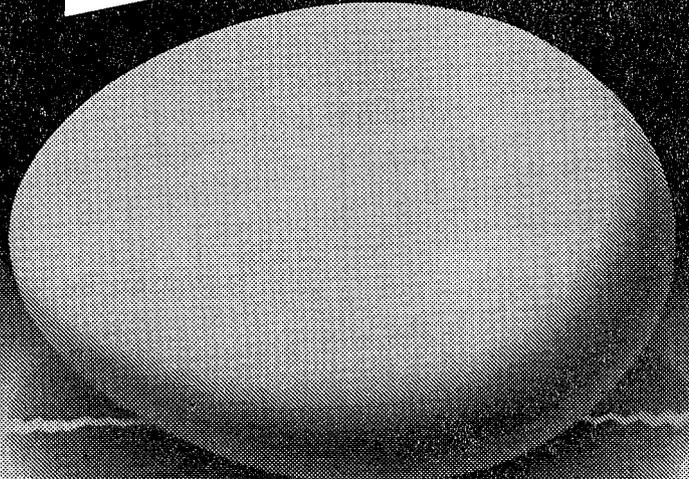
三菱化成工業株式会社 医薬事業部

〒100 東京都千代田区丸の内2-5-2(三菱ビル)
☎03(283)6791(直通)

大阪支店化成品部門
☎06(208)4560(直通)
東京支店化成品部門
☎03(283)6100(直通)

名古屋支店化成品部門
☎052(562)2556(直通)
九州支店化成品部門
☎092(291)8891

増殖 エネルギー



増殖を支える大きな力、組織培養用培地 —— 日水製薬から

■ 高圧蒸気滅菌可能 KM含有 NaHCO ₃ *L-Gln不含	イーグルMEM培地①	■ NaHCO ₃ 不含	フィットシャーの培地
■ 高圧蒸気滅菌可能 KM含有 NaHCO ₃ *L-Gln*PR不含	イーグルMEM培地②	■ 高圧蒸気滅菌可能 KM含有 NaHCO ₃ *L-Gln不含	ES培地
■ 高圧蒸気滅菌可能 NaHCO ₃ *L-Gln*PR*KM不含	イーグルMEM培地③	■ NaHCO ₃ 不含	ハンクス液①
■ 高圧蒸気滅菌可能 浮遊培養用 KM含有 NaHCO ₃ *L-Gln不含	イーグルMEM培地④	■ NaHCO ₃ *PR不含	ハンクス液②
■ 高圧蒸気滅菌可能 KM含有 NaHCO ₃ * L-Gln*L-Arg*L-Leu*L-Met*L-Phe不含	イーグルMEM培地⑤	■ NaHCO ₃ 不含	アール液
■ 高圧蒸気滅菌可能 NaHCO ₃ *L-Gln不含	イーグルBME培地		ダルベッコPBS(-)粉末
	イーグルMEMアミノ酸ビタミン培地	■ ダルベッコPBS用	金属塩類溶液
■ NaHCO ₃ 不含	ダルベッコ変法イーグル培地①	■ 無菌凍結乾燥	グルタミン
■ 高圧蒸気滅菌可能 NaHCO ₃ *L-Gln不含	ダルベッコ変法イーグル培地②		
■ NaHCO ₃ 不含	199培地		
■ NaHCO ₃ 不含	ハムF12培地		
■ NaHCO ₃ 不含	RPM I 1640培地①		
■ 高圧蒸気滅菌可能 NaHCO ₃ *L-Gln不含	RPM I 1640培地②		



製造発売元

日水製薬株式会社

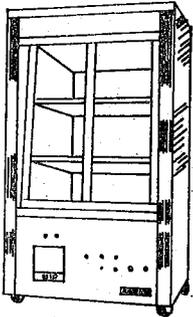
本社 〒170 東京都豊島区巢鴨2-11-1

電話 03(918)8166(代)

営業所 東京・関東・大阪・名古屋・広島・福岡・仙台・札幌

NK式生物研究用機器

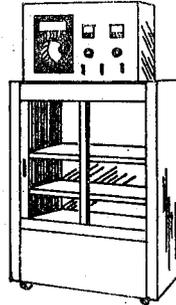
NK式電気低温恒温器(送風循環型) 高精度普及型



型式	LP-100 -S型	LP-150 -S型	LP-200 -S型
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	460×380 ×490	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	26万円	30.5万円	32万円

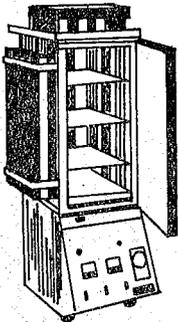
※その他いろいろなタイプがあります。

NK式プログラム電気低温恒温器(送風循環型) 四季の温度がプログラムで自在に再現できます!



型式	LP-150 -3P	LP-200 -3P	LP-300 -3P
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	460×880 ×480	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	49.8万円	53.5万円	60万円

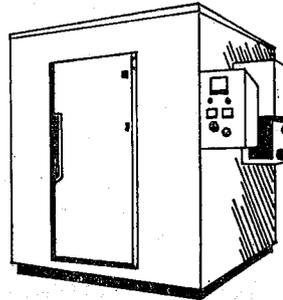
NK式人工気象器 植物の育成、小動物(昆虫)飼育の本格派!



型式	LH-100 -RD型	LPH-100 -RD型	LH-100 -RDP型
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	360×350 ×680	360×350 ×680	360×350 ×680
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+10℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	温度のみ 47万円	温・湿度付 73万円	プログラム付 66万円

※その他いろいろなタイプがあります。

NK式プレハブ電気低温恒温槽 組立、移設、増設が思いのまま!

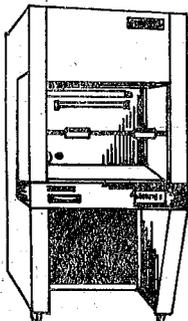


精密型

- LH型+5℃~45℃
価格1坪1,190,000円
より各種
- LP型+18℃~45℃
価格1坪1,290,000円
より各種

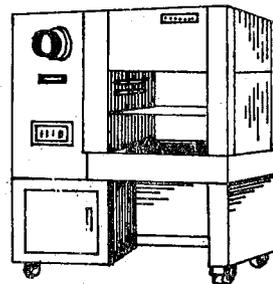
※詳細はプレハブシリーズカタログをご請求下さい。

NK式クリーンベンチ(垂直層流型)



NKB-VS-850
¥780,000
NKB-VS-1300
¥880,000

NK式クリーンベンチ(垂直層流両面型) 無菌作業の能率アップに!



NKB-VW-850
¥1,200,000
NKB-VW-1300
¥1,500,000

NKS 株式会社 日本医化器械製作所

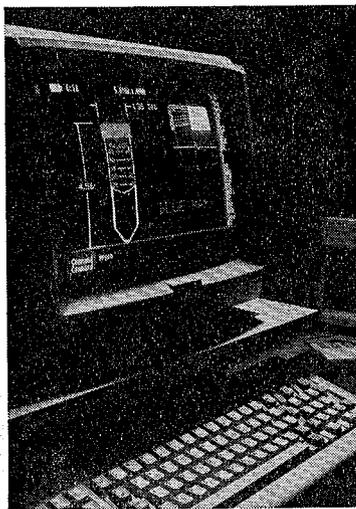
本社 〒550 大阪市西区江戸堀1丁目19番24号 電話 大阪 06(443)0712(代)
東京営業所 〒183 東京都府中市緑町7053-4 電話 府中 0423(65)3245(代)
工場 〒583 羽曳野市駒ヶ谷5番地47号 電話 羽曳野0729(58)1919(代)



研究活動最前線。先進の科学でお応えします。

ファルコン組織培養器具

高度な研究活動に、すぐれた器材の存在が欠かせないように、そこで使われる器材の開発にも高度な科学技術と最新の手法が駆使されています。ファルコンは、研究室におけるニーズを先取りする形でさまざまな組織培養器具を開発しており、そこでは、最新の科学的手法が活用されています。コンピュータによる製品開発・設計システムは、機能面、品質面ですぐれた製品づくりに役立っております。材質面では、研究室においてフルに性能を発揮するように開発され選び抜かれたものが使われています。たとえば、50mlコニカルチューブ



ブルーマックス(Blue Max)については、透明度と強靱さを両立させるため、特別に開発した共重合体ポリプロピレンを使用しています。

ベクトン、ディッキンソンの品質保証基準は、合衆国のGMPによるガイドラインを上回っており、また製品内のバラツキを無くすためのプロセスモニターは、軍仕様の基準による品質プログラムを使用し、高い品質水準を確保しています。

研究活動の最前線で求められる信頼性の高い組織培養器具——

ファルコンは先進の科学技術でお応えいたします。

**BECTON
DICKINSON**

輸入販売元

Becton Dickinson Overseas Inc.

ベクトン、ディッキンソン オーバーシーズ インク

〒107 東京都港区赤坂8-5-34 島蔭ビル TEL. 03(403)9991(代)



製造元

Becton Dickinson Labware

ベクトンディッキンソン ラブウェア事業部

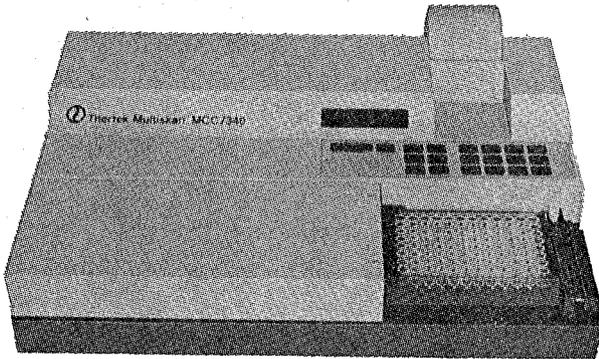
Division of Becton Dickinson and Company

●B-D、ファルコン、Falcon、Blue Maxは、ベクトン、ディッキンソン アンドカンパニーの商標です。●Becton Dickinson Labwareはベクトン、ディッキンソン アンドカンパニーの事業部です。

紫外部測定が可能になりました

マイクロプレート用吸光度計

タイターテック マルチスキャンMCC/340



＊紫外部フィルターを装着！
従来の可視部フィルターに加えて紫外部フィルターを装着しました。

＊コンピュータ制御可能！
コンピュータによる操作およびデータ取り込みができます。

＊7種類の測定表示モード！



大日本製薬株式会社
ラボラトリー プロダクツ部

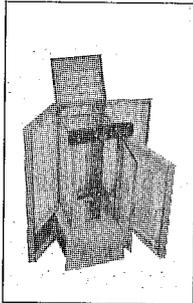
〒564 大阪府吹田市江の木町33-94
TEL 大阪 (06) 386-2164 (代表)

提携



Flow Laboratories

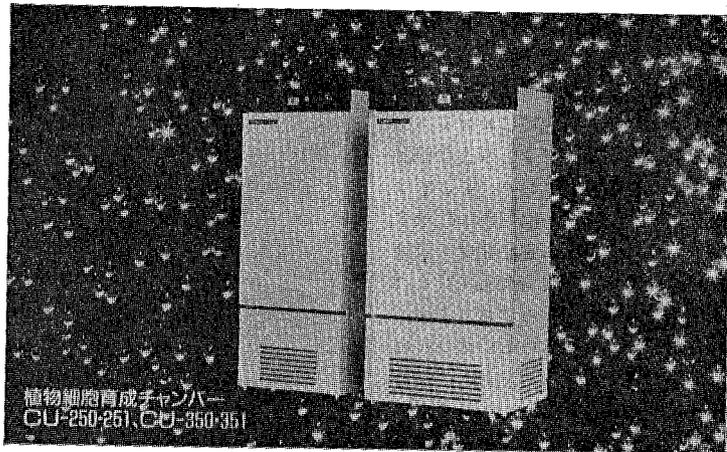
4-8



植物細胞育成チャンバー

□ 今ハハオの時代を迎えて
高照度・高精度・高湿度制御。
殺菌灯とフィルター使用スクリーンを空気が循環。
昼夜の環境を確実に制御できるルカバトタイプ。

TOMY



植物細胞育成チャンバー
CU-250・251、CU-350・351

- 5面からの強力照射(植物育成用紫外灯の使用も可能)。
 - 除菌装置付き空気循環サイクル。
 - 庫内温度の異質上昇、下降を防止する安全機構。
 - プログラム運転が可能なCU1601・351
 - 最大照度 庫内設置
23,000lx
CU1601・251
12,000lx
CU1601・351
CU1601・351
 - 使用温度範囲
+4〜+50℃
 - 各種育成機器も同時発売
クリンベンチ、CO2インキュベーター、サーキュレーター、シャーケージ、オーブン、倒立型顕微鏡
- 株式会社「トミー精工」
本社 06-979-9311
札幌 011-742-8888
(松本機械製作所内)
筑波 0292-56001
大阪 06-6609-0303
福岡 092-641-8451
(新興精機内)

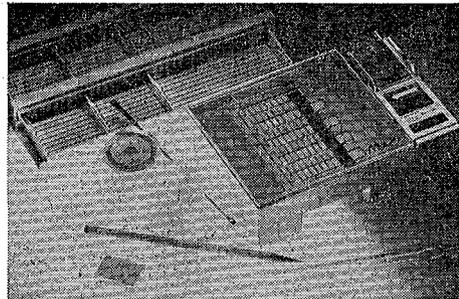
Mupid-2.

ミニゲル電気泳動システム《ミューピッド-2》

従来のミューピッドにポリアクリルアミドゲル調製用カバーが付きまして、アガロースゲル同様、簡便な使用が可能となりました。

- お一人に一台以上。
- 安全、軽量、簡単な操作。
- 学生の実習用など教材としても最適。

※部品の別売もしております。



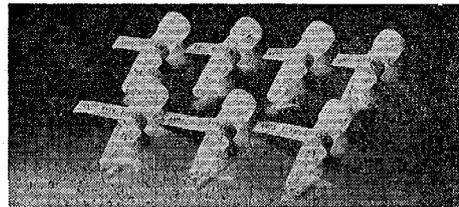
超安価 ¥29,800

(PAGE調製用カバー、電源及びゲルメーカーセットを含む)

Didets. (抗血清)

DIAGNOSTIC DETECTION SYSTEM

- 全血清(留分)の凍結品、高力価。
- 細胞骨格研究用等にお使いください。



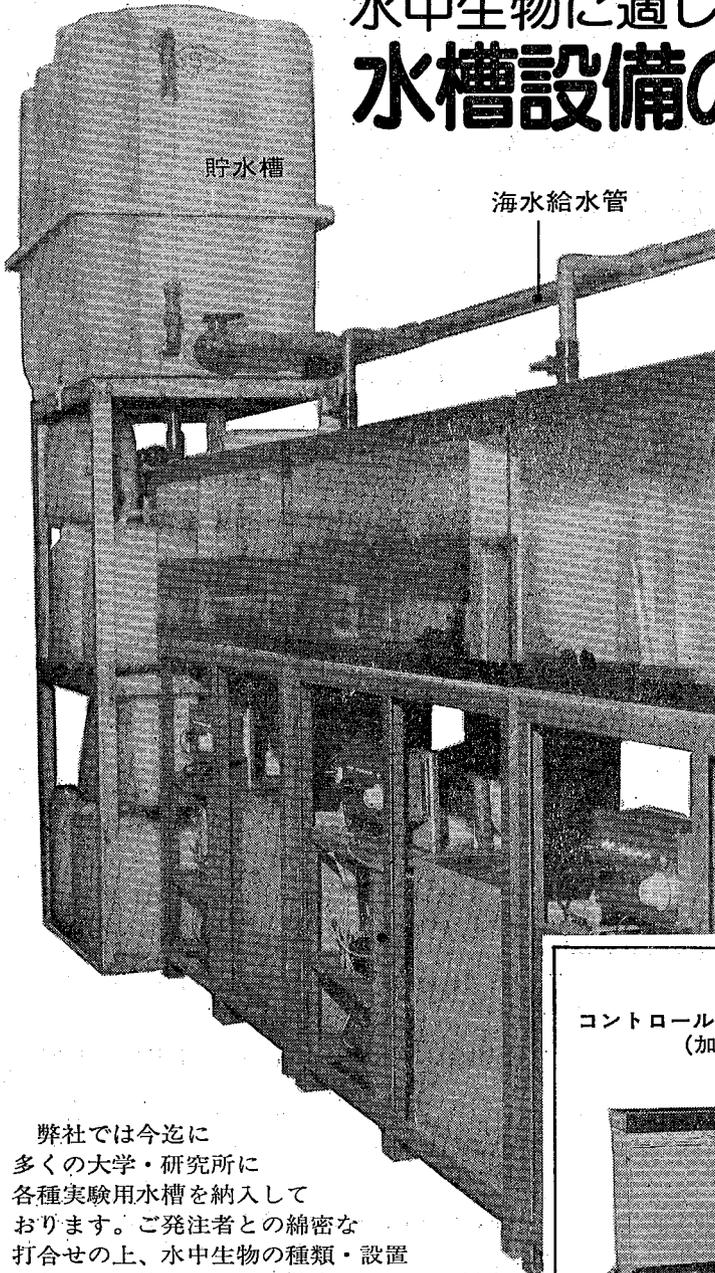
品名〔抗原由来〕	特異性
〔ウサギ〕抗タイプⅠ・コラーゲン (Anti Collagen, type I) 〔ウシ真皮〕	ヒト及ラットと交差あり。タイプⅡ、Ⅳコラーゲンと交差せず、タイプⅢコラーゲンと僅かに交差(ELISA法)。
〔ウサギ〕抗タイプⅡ・コラーゲン (Anti Collagen, type II) 〔ウシ関節軟骨〕	ヒト及ラットと交差あり。タイプⅠ、Ⅲ、Ⅳコラーゲンと交差しない(ELISA法)。
〔ウサギ〕抗アクチン (Anti Actin) 〔ニワトリ胸筋〕	非筋細胞アクチンとも交差する。種特異性は殆どなし。
〔ウサギ〕抗ミオシン (Anti Myosin) 〔ニワトリ胸筋〕	非筋細胞ミオシンとも交差する。種特異性は殆どなし。
〔ウサギ〕抗チューブリン (Anti Tubulin) 〔ラット脳〕	ヒトと交差する。
〔ウサギ〕抗S-100蛋白 (Anti S-100 Protein) 〔ウシ脳〕	ヒト、ラット、マウス、ウナギと交差する。
〔ウサギ〕抗黄体形成ホルモン-β(LH-β) (Anti Luteinizing Hormone-β) (Anti LH-β) 〔ヒツジ下垂体〕	ヒト、ラット、マウスと交差する。

※近日、抗タイプⅢコラーゲン・抗タイプⅣコラーゲン・抗タイプⅤコラーゲン等を新発売いたします。お問合わせは、下記までご連絡ください。

製造元  **株式会社アドバンス** 〒103 東京都中央区日本橋小舟町5-7 ☎03(667)1551(代)

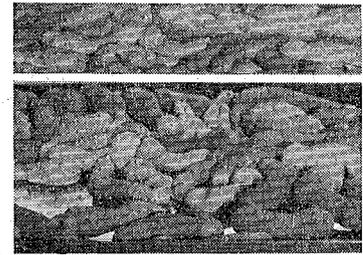
総販売元  **丸善石油バイオケミカル株式会社** 〒105 東京都港区芝浦1-1-1(東芝ビル) ☎03(798)3882(代)

水中生物に適した 水槽設備のご相談は どうぞ!!



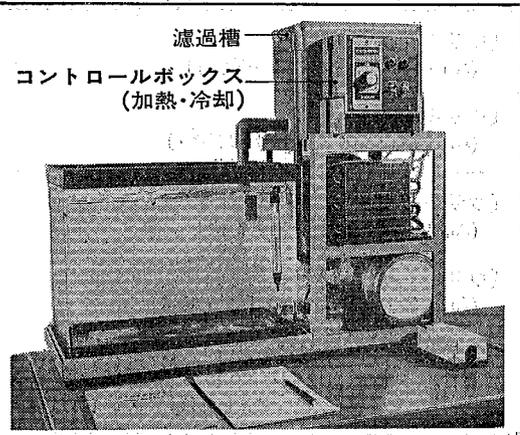
アクリリウム水槽

- 水槽寸法：1200×450×450H(%)×3台
- 海水の給水を容易にするため貯水槽をもうけ各水槽に配管しました。
- 左側の水槽では“ゆむし”を飼育中。



卓上型実験用水槽

- 水槽寸法：450×250×350H(%)
- 外形寸法：800×300×670H(%)
- 水中生物の飼育に必要な機能(濾過循環・水温調整・空気供給等)の全てをそなえています。



弊社では今迄に
多くの大学・研究所に
各種実験用水槽を納入して
おります。ご発注者との綿密な
打合せの上、水中生物の種類・設置
条件・ご予算に合わせて基本プランから製作・
施行までの一切をお引受けいたします。

水中生物実験をご計画の際は、弊社の技術と
アイデアをご利用下さい。

大型アクリル水槽 ● FRP水槽 ● コンクリート水槽 ● 水槽用加熱・冷却ユニット ● 運搬車輛用水槽 ● 付帯工事一式

お気軽にお電話下さい。

☎東京03(778)1751(代)

Fax. 東京03(775)8842



佐藤工業有限会社

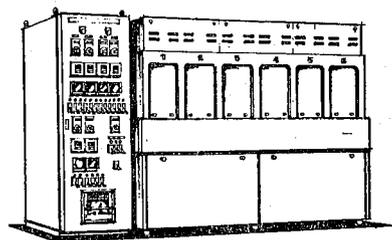
〒143 東京都大田区中央2丁目2番地6号

仙台営業所(活魚センター) 〒989-23 宮城県亶理郡亶理町荒浜鳥の海港 ☎02233(5)3230

Aquarex

研究に答える設備です

研究者のニーズにどう対応できるか——できるかぎりの努力をする
べきだと考えています。多機種の中から一部製品をご案内いたします。



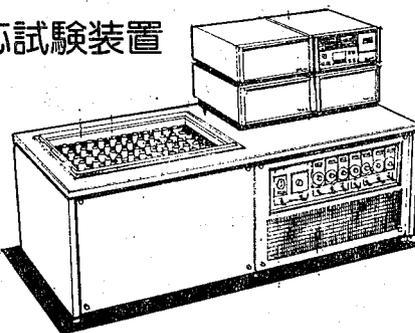
低温水棲生物生理実験装置

低温水棲生物の生理実験用装置。極寒冷地の植物性・動物性プランクトン、ウニ、ヒトデ、ペントス等に最適。水槽・温度調節装置・照明装置を装備。6槽分離独立。温度制御範囲は -5°C ～ $+30^{\circ}\text{C}$ 。照明装置（クールレイランプ、熱線吸収ガラス使用。高照度30,000 Lux。照度・照明時間の自由設定可能。

TG6-1500

卵稚仔温度反応試験装置

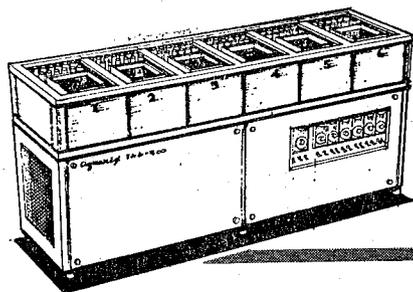
水生生物の卵・稚仔の環境温度に対する反応研究用に最適の装置。試験管88本により環境温度勾配を広範囲に一定保持。実験対象の各部位置温度を時間経過に従って記録。照度も自由に選べる照明装置。小型多点温度記録装置が特長です。



TG11-8

卵稚仔温度反応試験装置用馴致装置

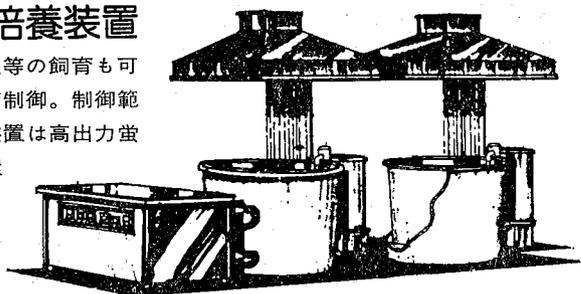
卵稚仔温度反応試験装置（TG11-8）の馴致用装置。本装置は6槽に分離独立。水槽ごとに温度設定が可能。各槽ごとの試験管挿入可能。卵稚仔を反応装置（TG11-8）に入れる前準備に、また分類作業に最適。温度制御は正確・広範囲に温度設定が可能。



TG6-300

プランクトン培養装置

動植物性プランクトンの海水培養用装置。幼魚・稚魚等の飼育も可能。2ポリエチレン円形2重水槽。外側槽による温度制御。制御範囲 $5\sim 35^{\circ}\text{C}$ 。ヒーター・クーラー自動切換式。照明装置は高出力蛍光灯。光量調節・照明時間の自由変更可能。海水循環酸素補給・水質維持装置付。



AR11D-1500

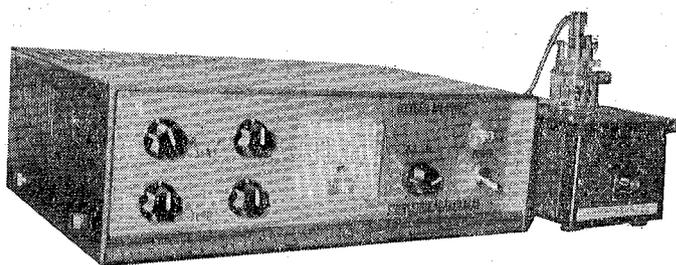
株式会社 **アクアレックス**

〒143 東京都大田区中央2丁目2番6号

お問合せ
ご相談はお気軽に ☎ 東京 03(778)0202

酸素電極による呼吸測定装置 (溶存酸素による呼吸測定装置)

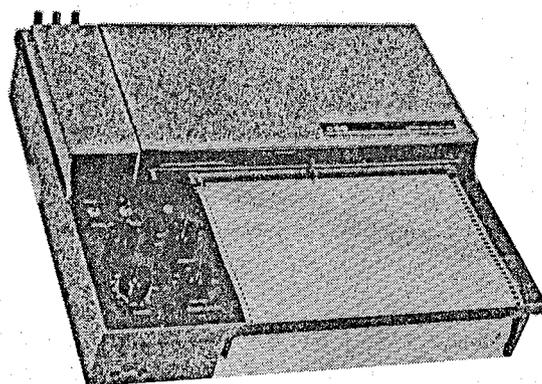
ミトコンダリア及び細胞懸濁液の溶存酸素減少による呼吸率の測定は、古くから行なわれて来ました。懸濁液を入れる密封容器の取扱いはかなりむずかしく、その容器の変更も困難でしたが、この容器は1.5ml~5mlまでの容量の変更が容易であり、試薬を懸濁液に投入したり、懸濁液の一部を密封状態のまま取り出す事が出来ます。セルはウォータージャケットがついていますので精密な温度コントロールが出来ます。フルスケール10mVの記録計に接続しても御使用できます。



S-1 溶存酸素測定装置

記録計

1mV~10V
フルスケール全幅移動可能
400K Ω ~無限大(レンジによる)
250mm幅
6段変速(標準最少2.5mm/min)
AC100V 50~60Hz



 信誠理化学器械株式会社

〒112 東京都文京区後楽2-21-14

TEL (03) 815-3066(代)

FAX (03) 815-3231



イオン交換水・蒸留水の 大量採取に!

オートスチル WG-55/75型

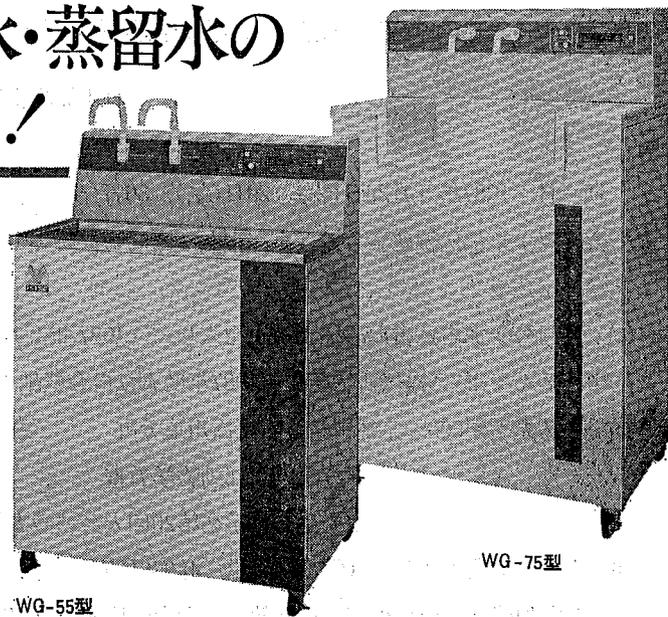
マイクロコンピュータ制御機構を採用、純水製造工程の水質チェックができるデジタル水質計をはじめ、独自の採水機構、ボイラ水自動排水機構などを備え、蒸留水はもとより、調合、洗浄に必要なイオン交換水を直接に、しかも大量に採取できるニュータイプです。

蒸留水採取量 (最大流出量)

WG-55型: 約5 ℓ/h (2.5 ℓ/min)

WG-75型: 約10 ℓ/h (3.0 ℓ/min)

イオン交換水流出量
約1.5~3.5 ℓ/min



WG-55型

WG-75型

ヤマト科学株式会社

本社 〒103 東京都中央区日本橋本町2-9-5 TEL. (03)279-0911(大代表)
新橋別館 〒105 東京都港区浜松町1-1-11 TEL. (03)434-7811(大代表)

■営業所/大阪・京都・名古屋・福岡・熊本・広島・仙台・札幌・金沢・甲府・城北・川崎・横浜・平塚・厚木・八王子・国分寺・千葉・大宮・川越・熊谷・宇都宮・筑波・鹿島

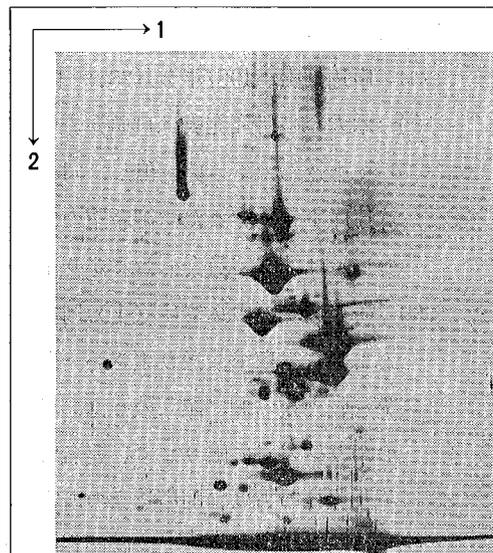
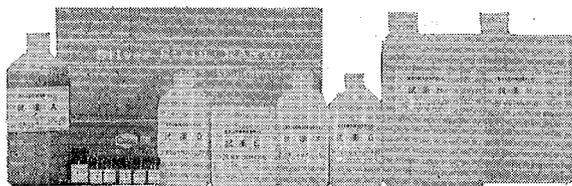
Silver Stain KANTO

電気泳動用銀染色キット

シルバーステインKANTOは、蛋白・核酸を高感度で簡単に検出できます。

シルバーステインKANTOは、現像が緩やかにすすむように調製されています。現像停止のポイントを判断しやすく美しい染色像が得られます。

Cat.No.57650 **Silver Stain KANTO**
電気泳動用銀染色キット・シルバーステインKANTO
スラブゲル (140mm×140mm×1.0mm) 25枚分



O'Farrell 2D-electrophoresis (一次元目はNEPHGE(1)、二次元目は、SDS/PAGE(2))。試料は、筋蛋白 5 μg。

関東化学株式会社 試薬事業本部

103 東京都中央区日本橋本町3-7 03(663)7631
541 大阪市東区瓦町3丁目1番地 06(222)2796

日本発生生物学会第20回大会のお知らせ

日本発生生物学会第20回大会準備委員会

委員長 米 田 満 樹

1. 期 日：1987年5月28日(木)、29日(金)、30日(土)
2. 会 場：京都伝統産業会館（京都市左京区岡崎成勝寺町 市バス東山二条下車）
3. 参加申込み
 - (1) 同封の参加申込書に必要事項を記入して、1987年2月28日(土)、(当日消印有効)までに申し込んで下さい。(研究発表は1987年度までの会費納入者に限ります)
 - (2) 申込先：〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部動物学教室
日本発生生物学会第20回大会準備委員会
 - (3) 大会参加費：5000円(学生・院生 4,000円)
大会参加費は郵便局の定額小為替で、指定受取人を京都市左京区北白川追分町 京都大学理学部動物学教室 丸山好彦
として、参加申込書と同封にてお送り下さい。
 - (4) 懇親会を大会第2日 5月29日(金)に行う予定です。参加を御希望の方は懇親会費(4,000円)を大会参加費に加算してお送り下さい。
 - (5) 同封の受取書の所定欄に名前および必要事項を、また表に郵便番号、住所および名前を記入し、必ず切手をはって下さい。
4. 研究発表
 - (1) 申込期限：1987年2月28日(土)(当日消印有効)
 - (2) 本大会の研究発表は口頭発表とポスター展示の併用で行います。発表者はどちらかを選択して申し込んで下さい。但し、同一研究室からの類似した演題での多数の口頭発表はなるべくご遠慮下さい。また、御希望の発表形式を変えて頂く場合もありますので御了承下さい。その決定は準備委員会におまかせ下さい。
 - (3) 研究発表の申込者は(Ⅰ)同封の参加申込書に必要事項を記入し(Ⅱ)発表要旨(和文)とともに書留でお送り下さい。なお、連絡書にも筆頭発表者(演者)名を裏面に、その連絡先を表の宛名欄に記入のうえ、必ず切手をはってお出し下さい。研究発表は昭和62年度までの会費納入者に限ります。連名で発表される場合には筆頭発表者(演者)が申し込んで下さい。それ以外の方は参加申込書の所定の欄に筆頭発表者(演者)名を記入して下さい。
 - (4) 口頭発表の場合：発表時間15分(口頭発表12分、討論3分)
会場には35mm判(外枠50×50mm)スライドプロジェクター1台を用意します。スライド枚数は1演題につき10枚以内とします。16mmフィルムの映写機の使用を希望される方は大会準備委員会(TEL 075-751-2111 内

線4082)にご相談下さい。

ポスター展示の場合：サイズは幅180×高さ180cmぐらいです。形式は特には定めませんので、大きめに工夫をこらして下さい。パネルへの貼付用具は準備委員会で用意いたします。

(5) 発表要旨の原稿はそのまま写真印刷しますので黒インクで明瞭に書いて下さい。図表も印刷できます。

(6) 同封の英文抄録用紙は各自の発表終了後、座長（ポスターの場合には受付係）に提出して下さい。参加申込みの際には同封しないで下さい。

5. 大会準備委員会では宿泊のお世話はいたしません。

宿 泊 案 内

- (共) く に 荘 (075-222-0092) 上京区河原町荒神口上ル ¥2,800 (税サービス別)
- (共) 御車^{みぐるま}会館 (075-211-5626) 上京区河原町今出川下ル ¥3,300 (税サービス別)
- (共) 白河院 (075-761-0201) 左京区岡崎法勝寺 ¥9,000 (2食付)
- (共) 洛陽荘 (075-771-5634) 左京区岡崎法勝寺 ¥7,600 (2食付)
- (共) 平安房 (075-561-8666) 東山区正面茶屋町 ¥5,390 (2食付)
- (ホ) ホテルサンフラワ京都 (075-761-9111) 左京区岡崎東天王町 ¥8,000(税,サービス別)
(12畳の和室あり)
- (ホ) ホテルサンルート京都 (075-371-3711) 下京区河原町松原下ル ¥7,190 (税サービス別)
- (ホ) 京都セントラルイン (075-211-1666) 下京区四条河原町西入ル ¥5,500
- (ホ) サンホテル京都 (075-241-3351) 中京区河原町三条下ル ¥6,350~6,950
- (ホ) ホテルアルファー京都 (075-241-2000) 中京区河原町三条上ル ¥6,430~6790
- (ホ) 京都ビジネスホテル (075-222-1220) 中京区木屋町御池上ル ¥4,000 (トイレ共同)
- (ホ) 京都ガーデンホテル (075-255-2000) 中京区室町御池 ¥6,710
- (ホ) ホワイト・キャンパス (075-256-3222) 中京区蛸薬師新町西入ル ¥4,800
- (ホ) サンセットイン (075-751-1170) 左京区孫橋通川端東入ル ¥5,500
- (ホ) 京都プリンスホテル (075-781-4141) 左京区下鴨神社前 ¥6,000
- (民) 京都トラベラーズイン (075-771-0225) 左京区岡崎円勝寺町 ¥4,300 (会場すぐそこ)
- (民) 京都民宿予約センター (075-351-4547)
- (Y. H) 東山ユースホステル (075-761-8135) 東山区三条白川橋 ¥3,300 (2食付)
(会員¥2,800)
- (ベ) ペンション東山祇園 (075-882-1181) 東山区白川筋三条下ル ¥3,800
- (ベ) ペンション想い出草京都 (075-751-7780) 東山区三条東山東入ル ¥4,500
- (ベ) ペンション・リオンドール (075-256-1355) 中区東堀川通夷川上ル ¥4,400
- (ヤ) 学生センター (075-771-6025) 左京区田中関田町 ¥2,800 一般可

* (共) 共済組合施設 (ホ) ホテル (民) 民宿 (Y. H) ユースホステル
(ベ) ペンション (ヤ) 宿泊施設

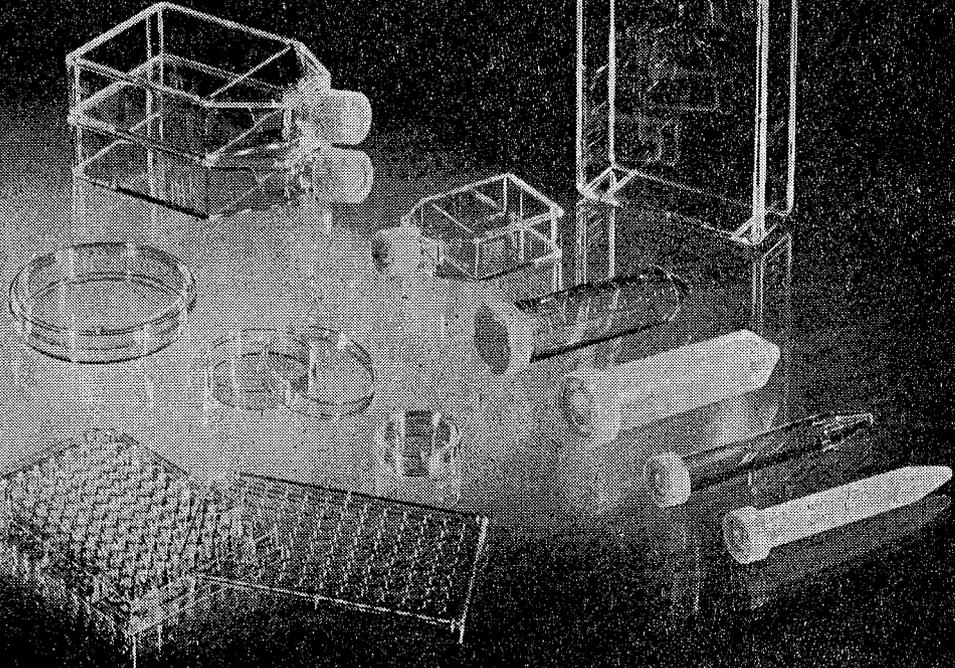
* 会場(京都伝統産業会館:左京区岡崎公園)への交通の便がよく、料金も比較的安いと思われる所をとりあげています。

なお、料金は昭和61年12月に確認したものです。これを参考に、御自由にお探し下さい。

CORNING

組織培養用プラスチック製品

ご満足いただけないCORNING組織培養用プラスチック製品は、無償でお取替えることをお約束します。



PYREX®のコーニングが提供する組織培養用プラスチック製品は
実験のバラツキを解消します。

●無菌生産

コーニングの組織培養用製品は、無菌環境で作られています。このためバクテリアは勿論、機械油の蒸気やほこり等の付着もなく、培養特性が安定しています。

●フォームラック

コーニングの遠沈管・培養管には、フォームラック付きがあります。収納や運搬に便利なうえ、ガタツキがないため傷をつけることなく、沈澱物が再浮遊する心配もありません。

●100%リークテスト

コーニングのプラスチックは、全数圧力試験を行っております。また厚手に成形されているので、リークやクラックの心配はありません。

●ダブルシールキャップ

ダブルシールキャップは、容器の口部内側と端部の2箇所でシールするもので、漏洩を完全に防ぎます。

●クロスコンタミネーション防止

マイクロプレートは、孔が独立しており、クロスコンタミネーションの危険がありません。

CODE	品名	品種	個/パック	個/ケース	材質(本体)	表面処理	滅菌	備考
25000	ペトリ皿	35φ×10mm	20	500	スチロール樹脂	○	無菌生産	
25010		60φ×15mm	20	500	"	○	"	
25020		100φ×20mm	20	500	"	○	"	
25100	フラスコ	25cm ³ (70mℓ)	20	300	スチロール樹脂	○	無菌生産	カントネック、ダブルシールキャップ
25110		75cm ³ (270mℓ)	5	100	"	○	"	"
25120		150cm ³ (600mℓ)	5	40	"	○	"	"
25140	ローラー ボトル	850cm ³ (2350mℓ)	2	36	スチロール樹脂	○	γ線	ダブルシールキャップ
25200	培養管	16φ×125ラック付	50	500	スチロール樹脂	○	無菌生産	ダブルシールキャップ
25310	遠沈管	15mℓラック付き	50	500	スチロール樹脂	—	γ線	許容遠心力1800 G、ダブルシールキャップ
25330		50mℓラック付き	25	300	ポリプロピレン	—	E T O	" 5000 G "
25820	マイクロ プレート	24孔、平底、蓋付き	1	50	スチロール樹脂	○	γ線	
25860		96孔、平底、蓋付き	1	50	"	○	"	

●表面処理は、親水性と細胞親和性を与えるもので、コーティングではありません。
●ETOは、エチレンオキシド・ガス滅菌です。
●詳細はカタログをご請求ください。

岩城硝子株式会社

本社 / 〒100 東京都千代田区九の内 3-2-3 (富士ビル)

本社販売部 ☎ 03(214)7401(代)

大阪支店 ☎ 06(362)6291(代)

名古屋支店 ☎ 052(211)3855(代)

九州支店 ☎ 092(451)5606(代)

広島支店 ☎ 082(248)0293(代)

札幌営業所 ☎ 011(221)3477(代)